

平成25年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時	平成25年5月14日（火） 午後2時～4時35分
場 所	柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

塚口義信（会長）、蓑原 正（副会長）、木下百合子、綿貫友子

荻田耕司、今西美和子、長尾一吉

（欠席 梶川哲郎）

事務局

岡本彰司生涯学習部長、宮本知幸生涯学習部次長兼文化財課長、

桑野一幸文化財課参事兼課長補佐、安村俊史文化財課主幹兼歴

史資料館館長、山根航文化財課係員、松安雅文歴史資料館嘱託

記録：安村俊史

1. 開会

安村館長より開会あいさつ

2. 委員紹介

3. 事務局紹介

4. 事務連絡

「執行機関の附属機関に関する条例」(平成24年12月28日・条例第24号)制定に伴う「柏原市立歴史資料館等運営協議会設置要綱」の廃止及び「柏原市立歴史資料館等運営協議会規則」(平成24年12月28日・教委規則第17号)の制定並びに委員の委嘱について。委嘱状の改めての交付は行わないことで、各委員の了承を得た。

5. 議事

[塚口会長による議事進行]

①平成24年度事業報告

(1) 歴史資料館関係 安村

(2) 横穴管理運営関係 桑野

報告内容については、資料参照。

【質疑】

○指定文化財、説明板の設置について

委員：玉手山公園の音楽堂は指定文化財にならないか。船橋遺跡に説明板は立てられないのか。

事務局：音楽堂については、指定も視野に入れて調査中である。船橋遺跡は河川敷という性格上、制約が多く困難である。

○入館者数、職業体験について

委員：昨年度とともに、22年度にも入館者数が減少しているが、その原因はわかっているのか。柏原市内の小学校は3年生と4年生と2回来ている学校も多く、市内の小学校との連携が進んでいると評価できるのではないか。職業体験で学芸員とはこんな仕事だとわかってもらえるにはどうすればいいと考えるか。

事務局：22年度・24年度の入館者減の原因はわからない。市内の小学校は、3年生はほぼ全学校、4年生も見学校が増えている。小学生だけで1万人の入館者数はありがたいことで当館の特徴でもある。学芸員の實習は、学芸員とはどうあるべきかという課題のもとに取り組めるが、職業体験の場合、職業としてどう対応していいのか迷っているところがある。

委員：小学校でも職業体験を受け入れているが、先生の立場から考えるように指導してい

る。資料館での職業体験も施設の維持（掃除など）ということもあってもいいし、学芸員の仕事のなかで、展示など一部でも体験させてあげることが大事ではないか。たとえば、発掘調査の体験などはいいいのではないか。

事務局：職業体験については、スポット展示の手伝いをしてもらっているが、それでいいのかという思いがある。発掘調査については、現場があるときはやってもらっている。むしろ発掘調査、遺物洗浄などは職業体験としては有効だと考える。資料館はむしろかしい。

○学校との関わりについて

委員：教員にとって、校区内の歴史・文化財等を知ることが必要だと思っているが、その概要がわかるような資料等をつくって、協力してもらえないか。地域に残された文化財・神社等をわかりやすく子どもたちに伝えられるような方法を考えてもらえれば、ありがたい。

事務局：先生方との関わり、地域の文化財については、課題として考えていきたい。

委員：教員研修等の実施状況は。

事務局：夏休みに新任教員研修を実施している。また、社会科教育部会の研修で学校における資料館利用についての講座等も行った。

委員：どこの館でも6年生や中学校の歴史学習との関わりが進んでいない。何かできるのではないかと思っている。

事務局：6年生との関わりに乏しいのは事実であり、何かいい方法がないかと考えている。

委員：先生や学校見学の際に参考になるプリント等があれば、校舎長会を通じて配付するので、いただきたい。

事務局：ありがたいお話しで、ぜひそうさせていただきたいと思う。

○展示について

委員：当館の展示は非常にわかりやすい。たいへんだと思うが、続けてもらいたい。

委員：いつも同じ展示だと思っている市民が多い。広報の仕方をもう少し工夫できないか。市民の作品展などは考えられないか。そうすれば、来館者も増えるのではないか。

事務局：新しく設けた常設展示室後半のスペースを利用して、市民の作品展等も考えていきたい。

○横穴公園内の樹木について

委員：横穴公園内の樹木の枝払いをしてほしい。日陰、毛虫、倒木の不安等を住民が抱いている。

事務局：史跡なので現状変更等扱いが難しい面はあるが、公園緑地との申し合わせ事項で対応している。確認のうえで枝払い等は可能。要望があれば、申し出ていただきたい。

②平成25年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村

(2) 横穴管理運営関係 桑野

報告内容については資料参照。

【質疑】

○市民向けのイベントについて

委員：文化財講座・古文書講座の人気の高いようだが、講座の充実や落語家などを招いてのイベント等を考えられないか。

事務局：講座の充実は現状のスタッフではむずかしい。落語家を招く等は、当館の事業との関連性など位置付け、費用などの問題もあるので、当館としての必要性を考えながら検討していきたい。

委員：横穴公開でさまざまなイベントとタイアップしてできれば、多くの人を呼べるのではないか。

委員：以前のような体験講座を増やしてはどうか。

事務局：文化財の保存・公開との関連性を考えながら検討していきたい。

○広報活動について

委員：回覧板の利用やポスターの掲示など、宣伝の工夫はできないか。

事務局：自治区・町会の負担が増えるので、回覧板はむずかしい。インターネットの充実を図っている。今年度、横穴公開のポスターを初めてつくった。ほかにも方法がないか、考えていきたい。

委員：十分に宣伝しても、あまり来てもらえない。足を運んでもらうのはむずかしい。人口7万人の市で2万人近くの入館者があれば十分だ。あせらずに、地道に続けていけばいい。

事務局：今後とも努力していきたい。

委員：わたしたちも協力できるところは協力するので、言ってほしい。

○企画展について

委員：大坂夏の陣から間もなく400年になるが、何か事業を考えているか。

事務局：企画展をしたいと考えているが、展示資料がなく困っている。現在、大阪城天守閣に資料借用、協力を申し入れている。市民の方々との連携事業も考えていきたい。

委員：夏季企画展「難波より京に至る大道を置く」は、新しい説の提示ということで、非常に楽しみにしている。できれば、マスコミへの資料提供等広報活動をがんばってほしい。企画展の注目してもらいたい点をもっと前面に出してもいいのではないか。

事務局：マスコミには資料提供しているが、あまり取り上げてもらえない。ホームページは、昨年度大幅に更新して充実させたが、それでも講演会や企画展がわかりにくいという意見もある。さらに充実させていきたい。企画展の目玉を強調するような広報方法の余地はまだあると思うので、工夫していきたい。

委員：「天誅組と新撰組」の展示は、来館者が多いのではないか。ぜひ、講演会を行ってほしい。

事務局：予算等を考えながら、考えてみたい。

委員：香芝市では、周辺市と共同で、フォトコンテストを行い、非常にたくさんの人が集まっていた。さまざまな部局との共同事業であり、柏原でも考えてみてはどうか。

③その他

○有料化、指定管理者制度について

事務局：新市長のもとで、2点の検討事項があがっており、意見をうかがいたい。1点目は有料化、2点目は指定管理者制度の導入である。まず、有料化について検討いただきたい。昨年度に実施したアンケートの結果、無料の継続希望が多く、有料化する場合はその収入を資料館の展示の充実等に反映させるとの条件が付けられていた。それをもとに運営協議会でも審議いただいたところ、やはり無料がのぞましいということであった。これをもとに、もういちど意見を伺いたい。

事務局：指定管理者制度は、資料館にはなじまないと考えているが、意見を伺いたい。

委員：資料館の管理・運営をすべて指定管理者に任せるということか。

事務局：そのとおりである。企画展や入館料まで、すべて指定管理者が決めていくことになる。

委員：現在は文化財課のなかに資料館があるのか。文化財課そのものを財団にすることもありうるのか。

事務局：ありうると思うが、財団は文化財課の事業にはなじまないと考える。

委員：資料館は体育館のような施設とは違う。指定管理はむずかしいだろう。

委員：有料化と指定管理は一体に考えているのか。

事務局：別の問題だ。

委員：小学生から入館料を徴収することも考えるのか。

事務局：それも検討課題となる。

委員：小学生は無料であるべきだ。そうすると、入館料を徴収しても、それほどの収入にはならないだろう。

事務局：事務局としては、無料を続け、幅広く利用していただいたほうがいいと考えている。運営協議会の意見としては、無料継続ということでもいいか。

委員：当館の特徴でもある学校教育との関わりなどの観点からも、有料化は本来の使命の放棄ということにもなりかねない。ぜひ、無料を継続してもらいたい。

議長：それでは時間もかなり超過しておりますので、ご意見がある方は、事務局に寄せていただきたいと思います。議事については、これで終わりにしたいと思います。

6. 閉会のあいさつ

岡本生涯学習部長

(終了 16 時 35 分)